



国鉄新潟

NO. 641
発行
2008・8月20日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
守橋久仁雄
編集責任者
教宣部



全国大会の 代議員の発言



第七十六回
全国大会の代
議員の方々の
発言について
編集しました。
まとめてあ
りますので不
充分な点があ
るかと思いま
すが、よろし
くお願いしま
す。
後日『国鉄
新聞』で参照
をお願いしま
す。
(地本教宣部)

大会第一日目

●JR不採用事件問題につ
いて、一年間全力で闘ってきた。
本部方針に基づき、各集会の開催
や大衆行動など強化してきた。裁
判闘争、東京高裁の裁判長の発言、
国交省大臣の前向きに解決に向け
て答弁があった。国労内部の統一
と団結、この流れを止めることな
く、四者四団体の団結の強化を堅
持していく。

●春闘について、本部方針の決定
がおそい。会社間格差が大きくなっ
て要求がまとまらなくなってきた。
職場での要求は現場で解決を図る
闘いを進めているが、要求が解決
できなければ上部機関に上げてい
る。現場の運動が先に動いている。
本部は早く方針を決定し実態に基
づいた取り組みを要請する。

●JR不採用事件の闘いにつ
いて、大衆行動など全力を上げて
闘ってきた。集会の開催や自治体
意見書採択の取り組みを強化し大
きく広範に取り組んできた。空白
の自治体へも取り組んでいる。六
十カ所へ協力要請を行っている。
●裁判闘争、民主党の働きかけで
国会・国交省への要請など行っ
てきた。今までの闘いについて、ど
こまで前進しているのか総括する。

東京高裁の裁判長や国交省大臣の
発言をどうとらえるのか国会解散
など解決に向けて大きな流れがあ
る。内閣改造があるなら、これま
での闘いをどう進めていくのか。
●組織拡大、拡大した。
職場は無権利状態、休日労働が
行われている。職場から加重労働
の解消、労働条件改善の闘いを進
める。闘いの中で青年の気持ちも、
どうつかんでいくのか広く訴えて
いく。



●職場の実態、職場では配転さ
せられている。出向社員は福利厚
生や労働条件など厳しい実態だ。



年間休日は十日間の減。子会社に
は会社からの連絡、指示・指令が
なく、車両故障に対しての対応が
できない。非常事態になっている。
●組織拡大、国労は単一体として
闘ってきた。全国的に拡大がある。
取り組みを強化することによって
相手の攻撃に対しても取り組むこ
とになる。●国鉄闘争、四国でも
各県で集会を開催し運動を広げて
いる。お互いの運動を尊重し、運
動を広げ共闘会議の団結を強める。

●春闘の取り組み、現場長へ
の申し入れを実施した。ひとり一
要求。申し入れに対して拒否され
ると思っていたが全職場で達成し
た。要求書を受け取る現場があっ
た。この取り組みによって職場環
境が改善されている。分会の機関
会議が開催されており定例化の開
催が達成した。●JR不採用事
件、闘争団、家族の健康状況が悪
化している。早期解決を求め、大
衆行動、カンパ活動強化と本部
をささえて運動を取り組んでいく。

●組織拡大が達成した。スロー
ガン「やればできる」。拡大は未
来につながる。職場で宣伝活動の
強化をしていく。西労組、会社側
は一体となって国労攻撃を行っ
ている。しかし集会の開催、ニユー
スの発行などの宣伝行動から運動
が前進している。●JR不採用
事件、団結することが解決へつな
がっていく。四者四団体をささえ
団結の強化をしていく。中央を地
方がささえていく。●春闘、積極的
に取り組んできた。春闘はストラ
イキで闘い要求の実現を、これを
本部に要求する。

●貨物問題、貨物の一括和解に
ついて、闘いの到達点は全ての争
議の解決で公平・公正な環境作り
につながる。労務政策は、国労の
取り組みで差別をさせない職場を
つくる。昇進試験について一定の
成果があった。差別をさせないこ
とを職場で進めていく。和解以降、
職場で拡大があった。●アスベス
ト、二人が被災。旧国鉄労働者へ
危機感を訴える。被災者の雇用の
確保、労働条件等の要求実現をめ
ざす。支援だけでなく具体的に取
り組むこと。



本部 中間答弁

- 春闘の取り組み～実態・検証の改善・方針の決定が遅い・スト決行を要求のついて
 - 戦術委員長・業務部長会議で議論を深める。
- 青年労働者のサービス残業について・安全問題や労働条件改善の闘い、昇進試験など
 - 全国的に、できる闘いを今後、検討していく。
- 四国や各会社間の出向の実態、安全問題の闘いについてどこまでできるのか
 - 職場の中の安全問題について交流の場をつくり、各機関会議の中で検討していく。
- アスベスト裁判の闘い、交流の場を深め闘いを取り組んでいくこと
 - 災害について、まだまだ広がっていく。これから要求実現に向けて取り組む。全体の意思統一を図る。鉄道運輸機構へ交渉をしていく。どのように闘い、交渉を進めていくのか検討し運動の強化をしていく。
- 春闘はストライキで闘うべきだ
 - これについては、いろいろなものを分析し判断したい。
- JR不採用事件について
 - 10・24の1万人集会を成功させるために地方で集会の開催や大衆行動を展開していく。国会への要請行動や自治体意見書採択の取り組み、労働委員から中央へ要請など今までやってきた運動を積み重ねていくこと。
- 院内署名（議員署名）の実施について
 - 窓口議員と相談し検討していく。



●**JR不採用事件** 二月から三月では集中した闘いの中で意思統一し大衆行動に参加をしている。裁判では、裁判長の和解提案や国交省大臣の発言など、そのことから四者四団体の団結を強化し闘いを進めていく。総結集・総団結をしていく。**組織拡大** 職場の労働条件の改善など職場の運動が重要だ。青年労働者の無権利状況の中、要求の申し入れを現場、支社へ実施した。



●**JR不採用事件** 地方での取り組みについて、自治体決議や要請行動を全体的な運動に拡大した。県議会では全党へ要請、国会議員への要請も行った。国会対策では全野党への取り組みを強化していく。**ローカル線**の第三セクター化と地域への運動の取り組み。地域との一体化した運動を取り組む。新幹線開業で在来線が第三セクター化へ、厳しい状況が続いている。並行在来線の第三セクター化について①国が言っている経営分離をやめさせるため中央、地方で集会を開催し訴える②地方ローカル線へ財政支援を③貨物輸送の確保を会社など申し入れる。鉄道輸送について格差をつけないこと。政治

課題が多くあるがJR問題も国民との共通課題として取り組んでいくこと。



●**組織拡大** 十九才の青年が国労加入した。貨物和解が影響している。貨物和解について地方でも有利に活用していくこと。**春闘** 格差や労働条件など切実な要求を実現するためにストライキが必要だ。賃金アンケート調査の取り組みを無駄にしない。ストで国労の存在を明確にしたい。**国鉄闘争** 情勢を認識すること。四者四団体の枠組みで取り組むこと。国労の総団結・総決起を求める。労働者へのセクシャルハラスメント・労働者いじめなどの取り組みを全国に広めながら運動を進める。



●**JR不採用事件** 四者四団体の団結強化が運動を進める。各中央集会の取り組み成功や大衆運動によりいっそうの強化をしている。統一して闘い、運動が実現していく。弁護士は解決に向かう時が一番難しい時期と判断。四国は地方連合に加盟している。国鉄闘争など署名・団体署名を取り組んだ。連合への協力も重要だ。**三島・貨物問題** 一緒に取り組めなかつたのか。税制特例・減免処置など。

●**JR不採用事件** 大衆行動国会要請を展開、そこからどう解決していくのか、本部の見解を。裁判所は和解の提案、解決へもつとも重要な局面になっている。大衆行動によって全国的な運動を展開していく。政党・全国会議員への要請や署名行動を実施していく。本部は具体的な運動の提起をすること。地域共闘の強化をすること。地域・国民との要求を結合し取り組みを実施した。十五回目の国鉄祭りを開催する。**安全問題** 職場は効率化・合理化が進んでいる。どう歯止めをしていくのか、安全が守られない。安全を守ることは職場を守ることになる。職場から共同行動によって要求解決に向けて支社交渉を実施した。外注化の歯止めをかけなければならぬ。エルダー社員の受け皿になっている。安全に対しての宣伝行動の強化をしていく。

『代議員の発言』が多く今号は4ページになります。簡略はしていますが、全部載せたいのでも長くなりそうです。よろしくお願いします。

641号 2



代議員の発言 第一日目

●**JR不採用事件**多く多くの労働者を組織していく。全労働者の実態を把握し学習交流会の開催をしていく。契約社員・非正規労働者の労働条件改善と国鉄闘争を結合し運動を前進させる。裁判闘争は最終的ではなく有利な条件をつくる闘いだ。運動・取り組みなど組合員に良く見えるようにする。

●**組織拡大**三名拡大した。貨物の仲間が貨物和解以降、拡大を達成した。意義のあることだ。**JR不採用事件**の裁判所の和解提案や国交省大臣の発言から解決の重要な時期にある。地方議会への意見書採択の取り組みも強化し、また公明党へも要請する。全国会議員への要請の実施を求める。自民・公明も含む。**組織対策費**の徴収について対応が遅い。組合費の具体的運営についてどうなるのか。**平和問題**横須賀基地での大規模な集会を開催した。



●**組織拡大**貨物で二名拡大した。二十才と十九才。分会の地道な活動が実を結んだ。貨物和解が拡大につながった。職場で点検調査を展開し要求の実現をめざす。国労への差別攻撃が和解から弱まった。賃金の減額や安全問題も含め見直し、交渉を行っている。

アスベスト全国で百六十八名、北海道では三十三名が認定者。アスベスト対策会議で国鉄OBも含め損害賠償の要求など取り組みを行っている。**JR不採用事件**北海道キャラバン行動を展開し大衆への宣伝行動を行った。運輸局への要請行動を六団体で実施した。早期勝利解決実現へ。



●**職場の闘い**大量の退職で欠員になり要員の確保について要求した。労働委員へ要請した。①効率化の導入であること②契約社員の採用がある③社員の勤務について公休・特休の買い上げがあること④安全衛生についての基準が満たされていない。この実態について改善を要求した。**組織拡大**広島で六名拡大した。決められたことをやりぬくこと。**JR不採用事件**物販活動の展開、それについて他労組から支持がある。国鉄闘争について、地域でスクラムコンサートを開催し広く宣伝、アピールした。団体署名や個人署名についても取り組みを強化している。情報の速達性、全国へ発信を。**平和の問題**自衛隊の海外派兵、軍事活動について訴えている。原油の高騰で労働者の生活不安が大きくなっている。ワーキングプアや高齢者問題など取り組みの強化をする。

国労東日本本部 定期大会の開催

9月12日~13日 湯河原



七月三十日の大会一日目が終了しホテルの部屋で休んでいましたら、突然花火の音が聞こえました。夕飯前のひととき、花火に圧倒され少し疲れが取れた感じがしました。部屋の窓が海岸方向にあり(九階)最高の場所になりました。二十分ほど眺め夕食会場へ向かいました。



●**列車事故**当事者(労働者)のみ責任をかぶせる会社側の姿勢について抗議する、安全問題など国労の役割は重要だ。会社側の提案によって業務改善の取り組みが行われている。国労がグループのリーダーとなった。安心して働ける職場づくりのため毎月一回会議を(三十分の超勤)行っている。職場で解決できないことは社長へ要請している。会議では全員が参加してくれている。他労組とも職場の状況を話し合い、安全な職場をつくる。**教宣担当**二カ月に一回会議を開催している。地本主催で他職場間の交流を深めている。連鎖学習会の継続開催も取り組んでいる。



●**国鉄闘争** 組織をひとつに総団結の取り組み、強化がされてきた。裁判闘争では国家的不当労働行為は明白だ。裁判所の和解提案が七月十四日に出された。年内結審し来年判決となる。国労としてもっと強固な大衆運動の取り組みを進める。**雇用・年金・解決金**、この水準を高める。四者四団体の団結を強化していくこと。国労運動を検証し、民主勢力を結集、労働者の結集をしていく。そのため組織拡大を取り組んでいくこと。**職場**は契約社員で業務が行われている。厳しい労働実態だ。正規雇用の要求を訴える。ストライキで闘うことで国労として団結する。正社員の要求を明確に上げ闘うこと。国労のあるべき姿勢を持つこと。



●**JR東日本の一括和解** 職場での差別を無くす闘いへ進んでいる。会社主権のスポーツ大会に国労が参加を実現した。貨物和解がされたが強制配転が解消されていない。しかし、ここから闘いの出発点だと考える。差別の根絶をめざす。それを背景にしながら拡大への取り組みを展開している。**JR不採用事件** 解決の正念場と考える。四者四団体の団結強化から七月十四日の裁判所の和解提案や国交省大臣の解決に努力する。の発言があった。野党・与党への申し入れや具体的取組の提起をする。世論形成の強化、現局面を生かし実現に向けて取り組む。

国労新潟地本 定期大会

10月18日(土)
新潟市『新潟会館』



●**安全問題** 尼崎線列車事故について、集会や学習会を開催した。事後、会社は個人に対しての訓練を重視しているが、必要な知識とハード面の対策が必要だ。全国、全職場での要求の実現をめざす。現場での交渉で解決できる取り組みを求める。**再雇用制度** 院内での民主党・鳩山幹事長の発言や国交省大臣の発言などは、解決の道筋になってきている。今までの運動が積み重なっている。全野党への要請や自民党への働きかけ、全国会議員への要請を行う。



地本団結 ハイクの 中止について

★10月25日に計画をしていました『地本団結ハイク』については、10月24日に中央集会在日比谷野外音楽堂で開催されます。そのため中止とさせていただきます。



編集後記

今号は、全国大会特集で代議員の発言を中心に編集しました。大会一日目ですが、四ページになってしまいました。
メモ書きしたものを、まとめましたが、なかなか簡略することができず、記載する文章が多くなっ
てしまいました。
次号も大会特集で、大会二日目の代議員の発言を中心に編集する予定です。八月中に発行できるようがんばります。

